

新時代の学びのイメージ示す！

〈「新しい時代の初等中等教育の在り方論点取りまとめ」〉

令和元年12月26日、中央教育審議会初等中等教育分科会は、「新しい時代を見据えた学校教育の姿（2020年代を通じて実現を目指すイメージ）等」を示した論点取りまとめを公表した。

「新しい時代の初等中等教育の在り方論点とりまとめ」の概要（全日教連要約・抜粋、太字下線は要望関連事項）

新しい時代を見据えた学校教育の姿（2020年代を通じて実現を目指すイメージ）

育成を目指すべき資質・能力

変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成

子供の学び

多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びが実現

○児童生徒一人一台コンピュータや高速大容量通信ネットワーク環境の下、教師を支援するツールとして先端技術を有効に活用すること等により、基盤的な学力の確実な習得が行われるとともに、多様な子供たち一人一人の能力、適正等に応じた学びが提供されている。

○特別な支援が必要な児童生徒に対する個別支援が充実され、特異な資質・能力を有する子供がその才能を存分に伸ばせる高度な学びの機会にアクセスすることができる。

○生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るために必要な資質・能力を育成するとともに、子供の生活や学びにわたる課題が早期に発見され、外国人児童生徒等を含めた全ての子供たちが安全・安心に学ぶことができる。

○一人一人に応じた探求的・協働的な学びが実現されるとともに、STEAM教育などの実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な学びが提供されている。

○特に高等学校では、普通科等の各学科において生徒の学習意欲を喚起し能力を最大限伸ばすことができるよう各学校の特色化・魅力化が実現されている。等

子供の学びを支える環境

全国津々浦々の学校において質の高い教育活動を実施可能とする環境が整備

○多様な人材を教育内外から確保するため、教職の魅力向上や教員養成、採用、免許制度も含めた方策を通じ、質の高い教師集団が実現されるとともに、教師と多様な専門スタッフ等とがチームとして運営する学校が実現している。

○教師が生涯を通じて学び続け、技術の発達や新たなニーズ等学校教育を取り巻く変化に対応できる環境が整備されている。

○学級担任制と教科担任制が効果的に実施され、質の高い教育が実現されている。

○デジタル教科書・教材等の先端技術や教育ビッグデータを効果的に活用できる環境の整備、統合型校務支援システムの導入等により、指導・支援の充実、校務の効率化がなされている。

○人口減少が加速する地域においても、小学校と中学校の連携、学校や自治体をまたいだ教職員の配置等を通じて、魅力的な教育環境が実現されている。

○幼稚園等の幼児教育が行われる場において、質の高い教育が提供され、全ての子供が健やかに成長できる良好な環境が整えられている。等

このような教育を実現していくために、学校のチーム力を高め、学校における働き方改革を着実に進めるとともに、特に、次の事項についての検討を深めていくことが必要

検討を深めていくべき事項（論点）

全日教連要望との関連

これからの学びを支えるICTや先端技術の効果的な活用について

子供たちが多様化する中、誰一人取り残すことない、個別最適化された学びの実現には、教師を支援するツールとしてのICT環境や先端技術が不可欠である。

- 〈ハード → 1人1台PC・高速大容量ネットワーク・クラウド〉
- 〈ソフト → デジタル教科書・教材等の開発・統合型校務支援システム〉
- 〈人材 → ICT活用教育アドバイザー、ICT支援員〉

- ・ 教師の在り方や果たすべき役割
- ・ 先端技術活用を踏まえた年間授業時数や標準的な授業時間等の在り方、
- ・ デジタル教科書の今後の在り方等について、令和2年度内を目途に方向性 等

- ・ 教師用PCの完全整備
- ・ 統合型校務支援システム導入
- ・ 年間授業時数の削減
- ・ デジタル教科書無償化



義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について

小学校高学年の児童の発達の段階、外国語教育をはじめとした教育内容の専門性の向上等を踏まえ、令和4年度を目途に小学校高学年からの教科担任制を本格的に導入すべきである。

- ・ 教科担任制に必要な教員定数の確保の在り方
- ・ 小学校と中学校の行き来の在り方
- ・ 教育職員免許法の在り方
- ・ 義務教育9年間を見通した教育課程の在り方 等

- ・ 義務標準法改正を伴う定数改善（定数改善を伴う教科担任制導入）
- ・ 義務教育免許（仮称）の導入
- ・ 導入に伴う持ちコマ数減

教育課程の在り方について

- ・ 児童生徒の学力向上に関する国、教育委員会、学校、地域等における取組の推進
- ・ 義務教育段階の各教科等において育成を目指す資質・能力を確実に育むための方策
- ・ 高等学校段階におけるSTEAM教育の推進 等

教師の在り方について

- ・ これからの教師に求められる資質能力
- ・ 免許状を持たない社会人の登用及び社会人等による普通免許状取得
- ・ 教員免許更新制も含めた効果的・体系的な研修の在り方 等

- ・ 社会人登用の際の研修の在り方等の検討
- ・ 教員免許更新制の実質化による負担軽減

新しい時代の高等学校教育の在り方について

- ・ 各高等学校の特色化・魅力化の実現に向けた方策
- ・ 地域社会や高等教育機関、産業界、関係機関等との連携・協働体制の構築
- ・ 定時制・通信制課程の在り方 等

- ・ 定数改善
- ・ スクール・サポート・スタッフの新規配置

幼児教育の質の向上について

- ・ 幼児教育の内容・方法の改善・充実、質の評価の促進
- ・ 幼児教育を担う人材の確保・資質及び専門性の向上
- ・ 家庭・地域における幼児教育の支援、幼児教育の推進体制の構築 等

- ・ 設置基準改正を伴う1学級あたりの幼児数引下げ
- ・ 研修機会の充実

外国人児童生徒等への教育の在り方について

- ・ 指導体制の確保・充実、日本語指導担当教師等の指導力の向上
- ・ 就学の促進、中・高校生の進学・キャリア支援の充実
- ・ 異文化理解や多文化共生の考え方に基づく教育 等

- ・ 日本語指導支援員や母語支援員等の配置拡充

新しい時代の特別支援教育の在り方について

- ・ 新しい時代の特別支援教育の目指す方向性・ビジョン
- ・ 特別支援教育を担う教師の専門性の整理と養成の在り方
- ・ 教育と医療、福祉、家庭の連携 等

- ・ 学級編制基準を障害種別に
- ・ 自閉症・情緒障害学級及び知的障害学級の定数の引下げ
- ・ 特別支援コーディネーターの専任配置

※ 本プランの詳細につきましては、右のQRコードや下のURLから閲覧できます。是非御覧ください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1382996_00003.htm



本論点取りまとめは、中教審初等中等教育分科会等における、これまでの議論及びこれからの議論の方向性を示したものである。特筆すべき点としては、既に令和元年度補正予算による整備を皮切りに今後5年間かけて整備される児童生徒1人1台のコンピュータ及び高速大容量通信ネットワークを含めた先端技術の活用について、また義務教育9年間を見通した小学校高学年における教科担任制を令和4年度から導入すべきとした点である。

これらについては、これまでの全日教連が要望してきたことが踏まえられており評価できる。しかし、今後議論すると示されているとおり、ICT環境整備については、教師用コンピュータの地財措置による整備や維持等の問題、また教科担任制については、定数改善を伴わないとより現場の負担が増大することや小学校と中学校の教員の教員免許状の取り扱い等、実際の導入においては多くの課題がある。今後の議論の行方を注視するとともに、来年度の要望において、現場の声を基に、新しい時代の学びについての提言を続けていく。